

## あとがき

この書物の刊行について最初にナカニシヤ出版の編集者酒井敏行氏から私にメールがはいったのは、二〇〇五年五月九日だから、もう三年三ヶ月も経過してしまつたことになる。私を酒井氏に紹介したのは、共編者の久本憲夫教授だから、実際にはこの書物刊行プロジェクトの出発点はもう少し遡ることになるのだろう。上記のメールでは、日本の雇用慣行が変わる・変わらないといった議論がなされているが、「日本の雇用慣行」とは何なのか、それはいつどのようにして形成されたのかについては一般にはほとんど知られていない状況に問題意識をもち、それを変えるのに役立つ書物を編むことができないかという趣旨のことが記されていた。私の当初の反応は、それは意義のある仕事だが、大変ですよというやや消極的なものだった。それがいつのまにか、このプロジェクトを実行に移すことになっていったのは、酒井氏のもの柔らかな説得力によるのか、久本教授の企画・組織力によるのか、あるいはまた、私がその年三月末で四年間の管理職の激務から解放されてややぼーっとしていたためなのか、よくわからない。たぶん、それらすべての要因によるところなのだろう。

実際にはじめてみると、案の定、なかなか大変な作業だった。基本的にはテキストに使えるような概説的書物として編集し、それぞれの専門家に分担執筆してもらったわけだが、雇用システムの歴史的な形成過程についての研究蓄積が十分でなく、それぞれの執筆者が悪戦苦闘して道を切り開くような作業とならざるをえなかった。

われわれの心持ちとしては、十年後くらいには、研究蓄積が進み、それに基づいた改訂版をわれわれ自身、あるいは誰か別のグループが編集することになるのではないか、この書物はその礎石を築くことはできたのではないかと考えている。また、希望としては、この書物になるべく多くの人の関心呼び起こし、歴史的形成過程を踏まえた雇用システム理解が進むとともに、そのさらなる実証的研究の進展のために刺激を与えることになればと願っている。

それにしても、少々時間がかかりすぎた。その間、このような小さなプロジェクトでもメンバーそれぞれの事情が生じ、遅れを重ねてしまった。不手際は編者の責任である。深くお詫びしたい。ともかくにもこうして書物としてまとまったのは、酒井氏の根気強い進捗管理の賜物である。執筆者一同になりかわって感謝の意を申し述べておきたい。

二〇〇八年八月

編者を代表して

仁田道夫